

1. 全国学校保健研究大会

日時：平成20年11月6日(木)・7日(金)

場所：新潟市 新潟市民芸術文化会館『りゅーとぴあ』

新潟コンベンションセンター『朱鷺メッセ』

記念講演 「性教育から生きる教育へ、予防教育から希望教育へ」

～WYS教育の視点から～

京都大学大学院准教授 木原雅子先生

アンケート調査から、高校3年生の30～40%が性経験者で、女性が男性を上回っており、相手の数は平均3人という現状を発表される。万引き・自傷行為も性行動と同じパターンで、家庭で話をしないグループが家庭で話をするグループの3倍という数字、情報収集手段でパソコン派より携帯電話派の方が性行動も多いというのも興味深い。親、先生から褒められた事がない生徒は、人間関係を持つのがへたという。先生や親以外から怒られた経験を持つ生徒が30～40%(昔は60～70%)と少ないのも問題だ。

そのような現状に対しての取組にWYSH教育がある。

「性」の問題は特定の人のものではなく、誰にでもリスクがあることを認識させること。性関係を急ぐ必要はない、何より互いを思いやる人間関係を築くことが大切であることに気づかせること。「性教育」を「生教育(生き方教育)」としてとらえ直すことなどが大きなねらいのようだ。授業で使用した命を大切にすビデオに感動した。

課題別研究協議会(第8課題快適な学校環境づくりをめざす学校環境衛生活動の進め方)研究発表

よりよい学校環境をつくるために学校環境衛生検査の結果を活用した保健学習の取組

- 学校薬剤師とチーム・ティーチングを通して -

新潟市立松浜中学校 養護教諭 大森悦子先生

学校薬剤師 錫村良章先生

保健学習で、学校薬剤師と保健体育科教諭、養護教諭のチーム・ティーチング例を発表された。事前打ち合わせに4時間も時間をとって実践されている。学校薬剤師も学習指導要領や教科書に目を通すことにより、より具体的な指導を行うことができている。また、学校環境が学校薬剤師によって、定期的に検査されていることを知る機会となっている。チーム・ティーチングを実践した素晴らしい発表であった。

学校環境衛生管理の徹底を図るために

～学校薬剤師との連携を中心に～

秋田県立秋田北高等学校 養護教諭 妹尾なつみ先生

校舎が改築され、建築物衛生法(建築物における衛生的環境の確保に関する法律について)の対象となり特定建築物の取り扱いを受けている例を発表された。空気環境の調整、給水の管理、排水の管理、清掃、ねずみ等の防除は、業者により検査が行われているが、飲料水の水質検査、教室の化学物質検査、照度、空気検査などは学校薬剤師により実施されている。冷暖房が完備されており、特に冷房時の換気が悪いので、全熱交換器を強にすることや、欄間を開けるなどの指導がされている。

児童が、主体的に取り組む学校環境衛生活動 - 豊かな心を育むために -

栃木県上三川町立坂上小学 養護教諭 手塚重子先生

小規模校の実践例を紹介された。清掃活動では、縦割りで班を作り、掃除用具の色分けをし整理整頓に努め、クリーンチェックカードを活用し指示待ちになってしまう児童を減らす工夫をされていた。保健委員会活動では、当番による飲料水水質検査、水道の使い方アンケート、ホウ酸団子作りなど活発に活動されていた。

指導助言 快適な学校環境つくりをめざす学校環境衛生活動の進め方

愛知県教育委員会健康学習課 主査 鈴木晴雅先生

3校の研究発表者の要点をまとめられた。

換気に関して、愛知県のホームページの紹介があった。

参考：学校における室内空気中化学物質対策マニュアル～シックハウス予防のために～

<http://www.pref.aichi.jp/kyoiku/kenkogakushu/sickhouse.html>

講義 学校環境衛生の現状と課題

文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 健康教育調査官 北垣邦彦先生

最初に、学校環境衛生検査でチーム・ティーチングされることは、「管理と学習」の面で理想的である。薬物乱用防止教育およびこれからの薬教育とあわせ是非実践して欲しいと話された。

学校環境衛生検査の定期検査が必ずしも完全に実施されていない状況にあり、「学校環境衛生の基準」の位置づけをより一層明確にするために法制度の整備を検討する必要がある。と中央教育審議会で提言された。文部科学省のホームページから次の全文がダウンロード出来るので参考にしたい。

中央教育審議会（63回）総会（平成20年1月17日）

「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について」（答申）

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo5/08012506/001.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo5/08012506/001.pdf)

一部抜粋

学校薬剤師は、健康的な学習環境の確保や感染症予防のために学校環境衛生の維持管理に携わっており、また、保健指導においても、専門的知見を生かし薬物乱用防止や環境衛生に係る教育に貢献している。また、子どもに、生涯にわたり自己の健康管理を適切に行う能力を身に付けさせることが求められる中、医薬品は、医師や薬剤師の指導の下、自ら服用するものであることから、医薬品に関する適切な知識を持つことは重要な課題であり、学校薬剤師がこのような点について更なる貢献をすることが期待されている。

学校保健法等の一部を改正する法律 第169回提出（平成20年2月）

公布（平成20年6月18日） 施行（平成21年4月1日）

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houan/kakutei/08040703/080617/002.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houan/kakutei/08040703/080617/002.pdf)

## 2. 全国学校薬剤師大会

日時：平成20年11月6日（木）16時30分～

場所：新潟市 ホテルオークラ新潟

表彰式で不適切発言があったのには、びっくりすると同時に不快であった。

特別講演「科学の目で見たおいしい・健康に良い野菜とは」

新潟薬科大学応用生命科学部 及川紀久雄先生

現在流通している普段私たちが食べている野菜は、硝酸濃度が高くおいしくない。

野菜の朝採りはおいしくない。夜は葉に蓄えた栄養分を若芽、枝・幹や根に分配されるので、夕採りがおいしい。魚沼産のコシヒカリが美味しいのは、霧と寒暖の差があり、夜ぐっすり眠ることができるから。有機栽培の野菜は安全・安心と思われがちだが、有機堆肥使用による食中毒細菌に汚染された野菜も少なくない。などなど、科学的データに基づいた事実だそうで、目から鱗だった。じゃあどうすればおいしい野菜が食べられるのかそこまでは話されなかったので、監修された「科学でわかった安全で健康な野菜はおいしい」を読んでみたい。

第59回全国学校薬剤師大会および全国学校保健研究大会は平成21年11月10日（火）・11日（水）に広島市で開催される予定。